

SDGs 達成に向けた ESD の在り方

—ESD についての教員研修を通して—

茨城県教育研修センター教科教育課 篠崎 智典

ESD for achieving SDGs — Through teacher training on ESD —

SHINOZAKI tomonori

【要旨】

2030 年までの持続可能な開発についての国際目標である SDGs は、発展途上国のみならず先進国自身が取り組む普遍的なものであり、世界全体での達成に向けた取組が期待されている。教育の分野でも SDG4.7 の実現を目指し、ユネスコを中心とした ESD の推進が図られているが、持続可能な社会の創り手をいかに育てていくか、現代の教育現場に投げかけられた大きな課題である。ユネスコにおける全世界的な ESD と、学習指導要領に位置づけられた ESD を改めて捉え直し、教員研修という視点で ESD の推進を目的とした実践を行い、SDGs 達成に向けた ESD の在り方を考察する。

キーワード： 持続可能な開発、SDGs、ESD、ユネスコ、教員研修

1 はじめに

2019 年 9 月、ニューヨークで開かれた国連気候行動サミットで、スウェーデンの 10 代の環境活動家グレタ・トゥンベリさんが、地球温暖化に対して思うような成果を出せない世界のリーダーたちに、“How dare you”（よくもそんなことを！）などと訴え話題を集めたことは記憶に新しい。自分たちの未来を大人たちには任せてはおけないというそのスピーチは、世界に衝撃をあえた。気候変動の問題は、大人たちだけではなく、現代の子どもたちにとっても、人生を貫く重要課題である。環境破壊、貧困、テロ、気候変動、自然災害、伝染病の蔓延など、地球規模の課題が増大し複雑化する中で、これらの課題解決を未来に先送りせず、世界全体で持続可能な社会の構築に向けた取組を進めることが重要になってきている。

このような世界状況の中で、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2016 年から 2030 年までの国際目標である、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals 以下 SDGs）」が注目されている。この SDGs が近い未来に向けた、国際的な目標であり、前述したように子どもたちにとっても人生を貫く重要課題であることから、SDGs 達成に向けた学習は 2020 年代の教育において、主要な柱のひとつといっても過言ではない。

本稿では、まず SDGs についての国際的な動向と共に、SDGs 達成に向けて大きな役割を担っているとされる「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development 以下 ESD）」との関係について考察する。次に、学習指導要領等等から、学

校教育の視点で SDGs 達成に向けた ESD の充実について考察する。さらに、今年度実際に行った教員研修を基に、今後の ESD の在り方について考察する。

2 持続可能な社会についての国際的な動向

(1) SDGs について

SDGs とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標(Millennium Development Goals 以下 MDGs) の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。この「2030 アジェンダ」では、冒頭に「人間」「地球」「繁栄」「平和」「パートナーシップ」の 5 つのキーワードが示された。(資料 1) さらに、これを実現するための 17 のゴール・169 のターゲットを明示し、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っている。(資料 2) MDGs が主に開発途上国を対象とした開発目標だったことにに対し、SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、世界全体での達成に向けた取組が期待されている。

17 のゴールは端的で非常にわかりやすく、また 169 のターゲットも、具体的でより実現性の高いものとなっている。しかし、環境と開発の両者の視点から見ると、矛盾する項目も見られる。そのため、17 のゴールや、169 のターゲットを個別のものとしてとらえるのではなく、1 つの地球の中で起こっている事象として関連づけ、結びつけながら、5 つのキーワードで表された大きな枠組みとしての基本理念を基に、最善と思われる解決策を、模索し続けることが必要となってくる。SDGs の実現に向けた教育では、これらの矛盾や葛藤を取り上げ、学習を進めていくことが大切であると考え



図 1 SDGs の 5 つのキーワードと 17 のゴール

表 1 SDGs の 17 のゴールの内容

	目 標
1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
2	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
4	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
5	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う
6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
8	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
9	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
10	各国内及び各国間の不平等を是正する
11	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
12	持続可能な生産消費形態を確保する
13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
14	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
15	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
16	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

出典：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（仮約）外務省 HP

(2) ESD について

ESD は国連教育科学文化機関（以下ユネスコ）を主導機関として、世界中で行われてきた。ユネスコでは、「全ての人々が持続可能な未来の実現に必要な知識、技能、生活態度、価値観を身につけることができる教育・学習」としている。

この ESD という教育へのアプローチは、1992 年のリオデジャネイロにおける国連環境開発会議に端を発し、2005 年から 2014 年にかけて「国連持続可能な開発のための 10 年(国連 ESD の 10 年)」として、ユネスコが中心となり促進してきた。さらに、2015 年からは、「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム (GAP)」として、①政策的支援、②機関包括的アプローチ、③教育者、④ユース、⑤地域コミュニティの五つの優先行動分野に焦点を当て、取組が続けられてきている。最近では、2019 年 12 月の国連総会において、「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（以下 ESD for 2030）」決議が採択された。この中では、ESD は SDGs で目標とされた質の高い教育 (SDGs の 4 番目：以下 SDG4) に必要不可欠な要素であり、また、その他全ての SDGs 達成の鍵として有効な手段であることなどが盛り込まれている。さらに、国際社会に対し、幼児教育から高等教育、遠隔教育、職業技術教育まで、すべての教育段階において包摂的かつ公正な質の高い教育を提供するように求めている。

ESD の捉え方について、望月 (2019) は、「ESD は包括的で分野横断的な取組のため、その起源や理念について国際的コンセンサスをとることは難しい」としている。また、松井 (2020) は、ユネスコの ESD の概念図と共に、「地球市民教育」(Global Citizenship

Education 以下 GCED) の概念図 (図 2 参照) を示している。日本ユネスコ国内委員会の示す ESD (図 3 参照) と比較すると、おおよそユネスコが提唱する ESD と GCED を包括した形が日本の ESD と捉えられるため、本稿では GCED の内容も含めて ESD としていく。

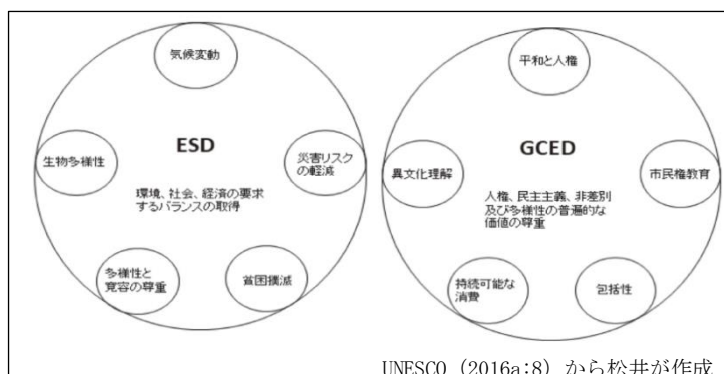


図 2 ユネスコの ESD と GCED の概念図



図 3 日本ユネスコ国内委員会
が示す ESD の概念図

(3) SDGs と ESD について

SDG4 において、「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」が位置づけられている。さらに、ESD の内容はターゲット 4.7 に示されている。(表 2) これらの目標やターゲットの達成に向けて、前述の ESD for 2030 の計画に基づき ESD が進められていくことが求められている。また、2017 年 12 月の国連総会決議では、「ESD が質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他の全ての持続可能な開発目標の実現の鍵」であることが確認されている。

表 2 SDG-教育 2030 アジェンダのためのロードマップ (一部抜粋)

SDG4 ターゲット	指標	2015	19	20	25	30
4.7 2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。	ジェンダー平等および人権を含む、(i) 地球 市民教育、及び (ii) 持続可能な開発のための教育が、 (a) 各国の教育政策、(b) カリキュラム、(c) 教師の教育、及び (d) 児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル	GAP		ESD for 2030 (SDGs 達成に資する人材の育成) 環境教育の推進		

出典：日本ユネスコ国内委員会作成資料

以上のことから、SDGs は ESD で取り組んできた、あるいは今後向かい合うべき喫緊の課題やテーマを具体的に掲げ、その解決に向けた方向性を明確に示したものと捉

えることができる。いわば、SDGs が目的であり、ESD がその達成の鍵となる手段であるともいえる。したがって、これまで積み上げてきた SDGs の実践を、現在の世界の状態を踏まえてブラッシュアップし、SDGs 時代における ESD を確立していく必要があると考える。また、GAP の提言では、『教育者は、教育変革を促し、持続可能な開発を学ぶ手助けするために最も重要な「てこ」の一つである』として「教育者の能力を強化することが急務」と述べている。教職員の研修に携わる者として、教員の能力の強化につながる研修の充実も、併せて必要と考える。

3 学校教育における ESD の充実

(1) 学習指導要領における ESD

ここでは、学習指導要領の中での ESD の取り扱いから、今後の学校教育においてどのように ESD を進めていくべきかを考察していく。

まず、学習指導要領の内容に注目したい。2016 年 12 月に発表された中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(以下答申)」では、「持続可能な開発のための教育(ESD)は次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」と示された。この答申に基づき策定され、2017 年 3 月に公示された幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領及び 2018 年 3 月に公示された高等学校学習指導要領においては、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられており、各教科においても、関連する内容が盛り込まれた。たとえば、中学校社会科では、地理分野及び公民分野における内容の取り扱いの中に記述が見られる。さらに、中学校学習指導要領解説社会編では、SDGs や ESD という文言の記述も見られる。これらのことから、学習指導要領に基づき、学校教育では持続可能な社会の創り手を育成する教育が行われることが期待されていると読み取れる。このような子どもたちを育成するためには、一つの教科だけの取組ではなく、学校全体が計画的に教科横断的な学習活動を実践していくことが求められると考える。

次に、学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」という理念に注目したい。答申では、教育課程について「社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと」と示している。奈須(2020)は、これについて、「社会改造主義的」と評価した上で、「社会に開かれた教育課程という理念はこれをさらに一歩先へと進め、学校がこれまで以上の積極性と主体性をもって社会との間によりよいパートナーシップを形成し、包摂的で持続可能な未来の実現に向けて一定の役割を果たしていく必要があることを明示したものとして解釈しうる」としている。「社会や世界の状況」をふまえ、そこを出発点として「よりよい社会」としての持続可能な社会を目指していく。今回の学習指導要領と SDGs や ESD との親和性は、極めて高いと考える。

以上のように、学習指導要領と ESD の関係性をふまえて、社会に開かれた教育課程という理念の基、教科横断的な学習課程を編成するなど、SDGs 時代のカリキュラム・マネジメントが、今後の学校教育における ESD で重要な役割を担うと考える。

(2) ESD を推進するための教員研修

前述の GAP では、①政策的支援、②機関包括的アプローチ、③教育者、④ユース、⑤地域コミュニティの五つを優先行動分野として取組を進めてきた。また、2019 年の ESD for 2030 でも、この優先行動分野は変わらないことが決定した。ここでは、③教育者に向けた取組について考察していく。

GAP では、学校教育において ESD を実践する教育者の育成として、「ESD のための学習のファシリテーターとなるよう、教育者、トレーナー、その他の変革を進める人の能力を強化する」としている。また、その具体的な内容を以下のように示している。

(表 3) また、ESD for 2030 では、「教員が、学習者が自発的に学ぶ機会を増やすべき。公教育及びノンフォーマル教育の学習者のための能力開発プログラムにおいて、どのように行動の変革が起こるかが理解され、反映されるべき。教員は学習のファシリテーターであるべき」という、努力事項が掲げられた。

以上のことから、学校教育での ESD を充実させるために、教員が教科横断的に学習をファシリテートできるようになるための教員研修を構築していく必要があると考える。また、ESD for 2030 での努力事項を受けて、研修の質の向上という側面と共に、研修の量という側面でも、充実が図られる必要があると考える。

表 3 ESD を実践する教育者の育成の内容

(a) ノンフォーマル及びインフォーマルな教育の教員及びファシリテーターと同様、就学前教育・初等中等教育の教員養成及び現職教員研修に ESD を取り入れること。ESD を特定の教科分野に盛り込むことから始めたとしても、最終的には ESD が分野横断的な項目として統合されることにつながる。学校長に対する ESD の研修も含まれる。
(b) 職業技術教育訓練の教員養成及び現職教員研修に ESD を取り入れること。これは、グリーン・ジョブのための技能と同様、持続可能な消費と生産の方法に関する能力の強化を含む。
(c) 持続可能性の問題を教え、解決指向型の多分野にわたる研究を指導・監督し、ESD 及び持続可能な開発に関する政策立案の知識を与えるための能力向上のため、ESD を高等教育機関の学部教授陣の研修に取り入れること。
(d) 例えば資源の効率化及び社会的責任や企業責任等の持続可能な開発の観点が、大学院教育及び政策決定者、公共セクターの職員、ビジネスセクターの社員、メディアと開発の専門家、その他の持続可能な開発に関する分野別及びテーマ別専門家の能力の構築・研修の強化された方法に取り入れられること。これは、民間企業の社員に ESD の社内教育プログラムを実施するのと同様、ESD プログラムのトレーナー研修や管理職教育に ESD を導入すること等を含む。

出典：日本ユネスコ国内委員会作成資料

4 教職員研修での取組

今年度、「持続可能な社会を創る！SDGs 研修講座」の担当をする機会に恵まれ、前述の考察の通り、GAP 以降の ESD で優先行動分野とされている、教員研修に携わることができた。そこで、本講座では、受講者が教科横断的に学習をファシリテートできるようになるための研修を構築していく必要があると考えた。希望研修のため、教職の経験年数や専門の教科、校種などが違う様々な受講者が

表 4 SDGs 研修講座の概要

[ねらい] 新学習指導要領を踏まえた ESD の在り方や SDGs 達成に向けた取組についての講義や実践発表、演習・研究協議を通して、持続可能な社会の創り手となる人材を育成するために必要な資質と指導力の向上を図る。
[研修日数] 2 日間
[研修人数] 48 人
[受講者] 小・中学校、高等学校、特別支援学校の教諭、養護教諭及び講師。

集まる。それぞれの立場で、所属校において ESD 実践の中心となれる教員を増やせるように、以下の点を配慮しながら講座を運営した。

(1) 講座運営の構想

ア 「think globally act locally」の視点からの講座構築

文部科学省ウェブサイトには「ESD とは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む (think globally、act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動」と記されている。そこで、2 日間ある講座の第 1 日のテーマを、「act locally」として地域資源を活用した ESD について考えることとし、第 2 日のテーマを「think globally」として、地球規模で ESD や SDGs について考えることとした。

イ JICA 筑波との連携

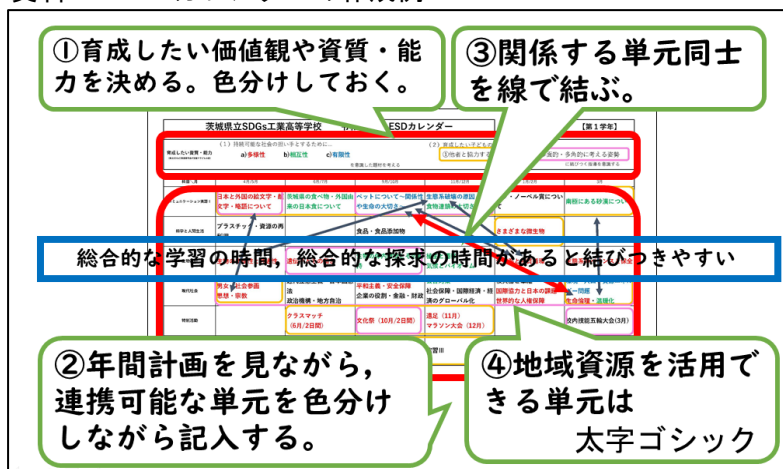
第 2 日の、地球規模で ESD や SDGs について考える研修では、独立行政法人国際協力機構（以下 JICA）に協力を依頼し、JICA 筑波で研修を行うこととした。JICA は日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力をを行っている。また、教師海外派遣や国際教育出前講座など多岐にわたる国際理解教育プログラムを実施している。豊富な実績と人材に加え、貴重な国際理解教育に関する教材などの活用は魅力的であり、研修の充実には欠かせないと考えた。また、SDG17 にもあるステークスホルダー同士のパートナーシップという面でも、非常に有用な取組になると考えた。

ウ 学習計画の作成による SDGs カリキュラムの可視化

受講者が教科横断的に学習をファシリテートできるようになるための研修となるように、指導計画の作成により SDGs カリキュラムの可視化を行うこととした。具体的には、第 1 日に「ESD カレンダー」（資料 1）を作成する。ESD カレンダーは ESD の年間計画表である。総合的な学習（探求）の時間を中心に添えて、資料 1 に記載されている①～④の手順で作成する。ESD に関連する各教科の単元や題材等とそのつながりが一目でわかり、教職員の意識の高まりや教育活動の深まりが期待できる。

第 2 日に「ESD プランニングシート」（資料 2）を作成する。ESD プランニングシートは、JICA の教材（SDGs アイテム）を基に、単元の学習計画を記入するシートである。まず、JICA 職員の講義や、海外派遣経験がある教員の実践発表を聞くことで、ESD を取り入れた学習のイメージをつかむ。次に、JICA 内にある豊富な資料や人材を活用した学習計画を考える。さらに、同じ教科・領域で ESD に取り組む教員で、協議を重ねながら計画書の作成を行う。この活動により、自校ですぐに実践可能な実効性のある教材作成と、ESD を取り入れた学習計画作りの基礎を学ぶことができると考える。

資料1 ESD カレンダーの作成例



資料2 ESD プランニングシートの例

演習・研究協議「ESD・SDGs 関連教材の作成と活用」			
ESD プランニングシート			
目標 生徒会による「SDGs ポスター」を通して持続可能な社会の実現に向けて、生徒が主体的に活動することができる。		特活	
時		活動	・留意点 ◎評価
各委員会ごとに、SDGs ワークショップを行う。 ・映像からSDGs 達成の重要性を知る。		・それぞれの委員会に関する映像資料を選定しておき、委員会ごとに活動の視点を絞れるようにする。	・授業で使える映像資料 ①③
委員会ごとに、SDGs ポスターを作成する。 ・タブレットで、委員会の内容に関連する情報		・持続可能な社会に関連する資料にSDGs シートを貼って、ポスターの資料を整理させる。	・SDGs シート ③

(2) 分析と考察

ア 「think globally act locally」の視点からの講座構築

第1日の受講者の感想では、「子どもたちの学びと、カリキュラムを評価する視点を大切にしていきたい。」や「地域の弱みや強み、その他の資源を知り、ESDを充実させたい。」等、第1日のテーマである「act locally」の視点でESDについて考えることができたという回答が多く見られた。地域との結びつきに特化した研修にすることにより、よりよい社会を身近なところから作っていくという視点をもつ教員が増えたことは成果といえる。第2日受講者の感想では、「地域から世界へ視点を移しながら多面的に考え行動できる生徒像を目指し、授業構想を練りたい。」や「年計にSDGsの視点を明記することを、学校全体で取り組めるように提案したい。」等、第2日のテーマである「think globally」の視点で、地球規模でESDやSDGsについて考えることができたという回答が多く見られた。第1日と関連づけながら、グローバルとローカルの視点を組み合わせ、「グローカル」に地域や国際社会を結びつけることができた教員が多く見られたことは、成果といえる。

イ JICA 筑波との連携

第2日の、受講者の感想では、JICA の取組に興味をもったという意見や、JICA と連携して実践を行ってみたいという意見が多く見られた。また、豊富な教材や JICA の国際理解教育プログラムを基に、ほとんどの教員が具体的な学習計画を立てることができた。また、事後のメールでのやりとりで、実際に自校で実践をした報告も多数届いている。(資料3) SDGs に関わるステークホルダーの連携が、大きな効果を生むことは常々謳われてきたが、実際に本研修でその成果を発揮することができた。

資料3 研修後の実践の報告



ウ 学習計画の作成による SDGs カリキュラムの可視化

第1日の「ESD カレンダー」では、矢印で様々な教科を結びつけ、教科横断の視点で学習計画を作成できた教員が多く見られた。(資料4) また、地域と連携し、地域教材を活用することについても、講師や実践発表者の意見を参考に、活用案に示していた。受講者の感想からは、「これまで地域の長所しか見てこなかったが、短所を見つけることで地域の課題を解決する学習が成立するとわかった」という意見が見られた。SDGs の17の目標と自分の住む地域を照らし合わせることで、地域の長所や短所に気づき、地域素材を教材かできた教員も多く見られた。

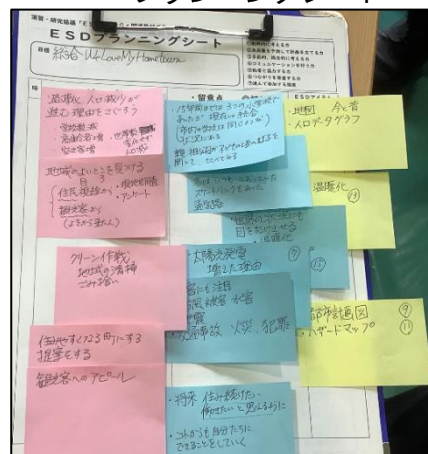
第2日の「ESD プランニングシート」では、SDGs アイテムを活用しながら、ESD を取り入れた学習計画を作成した教員が多く見られた。(資料5) SDGs アイテムを活用することで、教科目の達成に加えて、ESD の視点から身につけさせたい力も育成を図れるという、効果的な計画をたくさん作成できた。

以上のことより、指導計画の作成による SDGs カリキュラムの可視化を行うことによって、受講者が教科横断的に学習をファシリテートする視点を育てるための研修を行うことができたと捉える。

資料4 研修で作成した ESD カレンダー

小学校 令和3年度 ESD カレンダー		【第5学年】	
(1) 持続可能な社会を創り出すために		(2) 変化しない学びを育む	
a) 持続性 b) 環境性 c) 責任性 d) 資質・能力		① 未来像を学習して計画を立てる力 ② 進んで参加する態度	
教科・科目	4月	5月	6月
国語科	関心・関与を促すこと(5月)	読者の立場から読みとらえること(5月)	読者の立場から読みとらえること(5月)
社会科	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)
算数科	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)
理科	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)
家庭科	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)
体育科	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)
外国語	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)	世界の国々(4月)
総合的な学習の時間	SDGs について(5月)	SDGs について(5月)	SDGs について(5月)
道徳科	SDGs について(5月)	SDGs について(5月)	SDGs について(5月)
特別活動	SDGs について(5月)	SDGs について(5月)	SDGs について(5月)

資料5 研修で作成した ESD プランニングシート



5 おわりに

SDGs が採択され、17 の目標と 169 のターゲットが示されたことにより、これまで行われてきた ESD の目的が明確化し、子どもたちにとってもより具体的で、より自分事として捉えやすい学習となったといえる。教員の側から見ても、意識しやすいものとなっただろう。今回の教員研修のように、SDGs の達成に向けた ESD の充実を図れば、子どもたちの学びは成立するだろう。しかし、大切なのは数年後から数十年後に、子どもたちが持続可能な社会の創り手となっているかという視点だと考える。学びのその先にある、よりよい社会の創造を期待し、今後も SDGs の達成に向けた ESD の充実を図っていききたい。

【引用文献・参考文献】

- ・文部科学省 「中学校学習指導要領解説社会編」 平成 29 年 7 月
- ・中央教育審議会答申 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」 2016 年 12 月
- ・日本ユネスコ国内委員会「ユネスコスクールで目指す SDGs 持続可能な開発のための教育」 2018 年 11 月
- ・松井 晋作「持続可能な開発のための目標の教育分野を達成するユネスコの学びの構図」 2020 年 9 月
- ・望月 要子「持続可能な開発のための教育（ESD）」『SDGs 時代の教育』学文社 26-35 頁 2019 年 12 月
- ・奈須 正裕「新しい学力観と SDGs カリキュラム」『SDGs カリキュラムの創造』学文社 29-43 頁 2019 年 12 月
- ・日本ユネスコ国内委員会「ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引」 2018 年 5 月
- ・国際連合広報センター「2030 アジェンダ」 2021 年 2 月 1 日閲覧
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/
- ・ユネスコウェブサイト 2021 年 2 月 1 日閲覧
<http://www.unesco.org/new/jp/unesco-world-conference-on-esd-2014/resources/what-is-esd/>
- ・日本ユネスコ国内委員会「グローバル教育 2030 会合（結果概要）報告及びSDG 4 の動きについて」 2021 年 2 月 1 日閲覧
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/1415160_05.pdf
- ・文部科学省『「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）」について～第 74 回国連総会における決議採択～』 2021 年 2 月 1 日閲覧
https://www.mext.go.jp/unesco/001/2019/1421939_00001.htm
- ・日本ユネスコ国内委員会「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」 2021 年 2 月 1 日閲覧
<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1345280.htm>